

石峰&抱月のふるさと『地域まるごと博物館』

# 波佐ネット通信

No. 200 2022. 2. 25

地域研究センター協議会

【参加団体】

西中国山地民具を守る会  
波佐文化協会  
能海寛研究会  
ほたる湯館G・ゴルフ場

## 変わりゆく私たちの暮らし

2月25日(金)に雲城小学校3年生17名が金城民俗資料館で「昔の人の暮らし」を学習しました。最初は、ときわ会館でパワーポイントによる映像学習「変わりゆく昔の暮らし」を隅田館長から30分間視聴して、民俗資料館へ移動。資料館ではタブレットを手に持ち民具を撮影して、関心のあるコーナーで自由に撮影、コメントを入力して熱心に見学していました。

質問タイムでは、いろいろの問で、民具について熱心に質問をしてくれました。終わりの会では、児童各自が見学学習の感想を述べ寒い中にもかかわらず、活発な発表をしてくれました。

今後は、学習成果を纏めて「かべ新聞」を作成するそうです。



ときわ会館で民具学習



民俗資料館で終わりの会の模様

## 波佐の緒職用具を調査

昨年から調査を行っている「波佐の緒職用具」①鉄穴流し用具。②たたら製鉄用具。③鍛冶屋用具。④紺屋用具。⑤炭焼き用具。⑥屋根葺き用具。⑦養蚕用具。などの一覧リスト(全点数757点)、調査カルテの作成が、この程、完了しました。

明治30年のデータ「波佐物産一年見積」によると、収入の部では、「砂鉄、銑鉄、11,550貫目(一駄32貫、4円)高1,440円、(内鍊鉄約5,000貫)。半紙120丸(一丸12,00枚)・高360円。繭15石・高450円。炭一万貫・高100円。板二百間・60円。四八枕木30,000本・高600円。摺附木1,200丸・高3,600円。菌20石・高400円。生柿及び干柿5,000連(50,000)・高100円、5石・高60円。山芋100貫。など輸出高7,230円。」の記録が残されている。

鉄穴流し、たたら製鉄は明治30年代を以て消滅し、鍛冶屋は平成10年に消滅。紺屋は昭和10年代で消滅。炭焼きは昭和30年代で消滅。屋根葺き作業は昭和30年代で消滅。養蚕は昭和10年代で消滅しました。

これらの緒職は地域の主要産業として地域経済を潤していました。緒職用具757点を浜田市指定民俗資料に申請の運びとなりました。



屋根葺き替え作業の模様